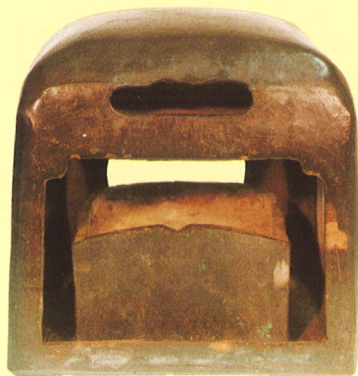


冬



春



ちよつと

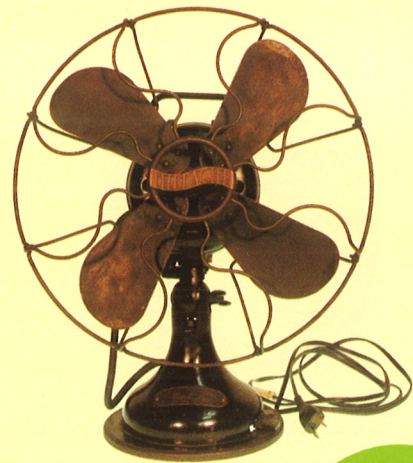
春夏秋冬、

昔

のくらし

の道具たち

秋



夏

### 柏原市立歴史資料館

開館時間 9時30分から16時まで

休館日 月・火曜日と祝日、2月12日

入館料 無料

交通 JR大和路線高井田駅から徒歩5分  
近鉄大阪線国分駅から徒歩15分

〒582-0015 大阪府柏原市高井田1598-1  
TEL 0729-76-3430

会期 2003年1月15日(水)  
~3月16日(日)

#### 体験学習

「わらぞうりを作ろう」

2月22日(土) 午後1時~4時

参加費 無料 定員 15名(先着順)

申込み 直接または電話で資料館へ



いまでは、クーラーやストーブによって、夏はずずしく、冬はあたたかくすごすことができます。やさいやくだものも、ほとんどのものが1年中お店にならんでいます。そのため、季節のうつりかわりをあまり感じなくなっていました。

でも、少し前までは、春夏秋冬の変化を、もっと感じながらくらしていたのです。あつい夏は水をまいたり、うちわであおいだりしてすごしました。ストーブがない冬は、少しでもあたたかくすごそうと炭であたたまりました。このように、季節の変化を感じながら、自然とひとつになって、くふうしながら毎日をすごしていたのです。わたしたちも、昔の人たちに学びながら、自然とともにくらしていきたいものです。

昔の人たちにとって、いちばんつらい季節は冬だったでしょう。火鉢にあたり、ふとんの中にこたつを入れて、ふるえながらさむい毎日を送っていました。それでも子どもたちは元気に遊んでいたし、楽しみにしているお正月もありました。お正月には、みんなでごちそうを食べてお祝いしました。



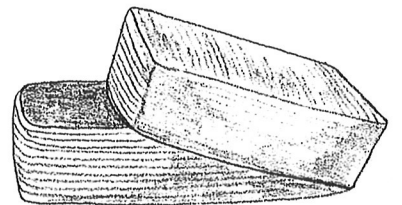
ひばち



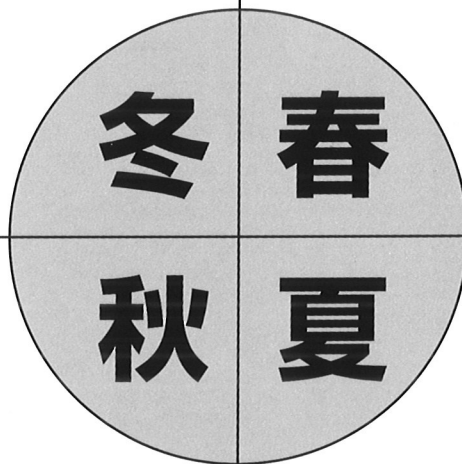
たわらあみだい

秋になると、日がくれるのが早くなります。秋の夜長といい、夜には男の人でも女の人でも家でできる仕事をしました。女の方は着物やぬいもの針仕事が多く、男の方はわらで俵やわらそうりを作る仕事を中心でした。少しの時間もむだにせず、働いていたのです。

さむい冬のあいだ、みんながあたたかい春を待っていました。春になれば、ひなまつりや花見など楽しいこともあります。田や畑へでかけることも多くなり、おべんとうを持って行くこともありました。おべんとうは、竹などで編んだ行李に、おにぎりとおつけものだけを入れていくことが多かったようです。



べんとうばこ



クーラーやエアコンがないころ、どのようにしてあつい夏をのりきっていたのでしょうか。



かや

道に水をまいたり、井戸水で行水をしたり、少しでもずずしくなるようにくふうしていました。夜は蚊にさせられないように、蚊帳の中で寝ました。